

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(令和3年度)

2. 分野別状況(2)地域活性化総合特区 ④観光等分野

	総合評価 (IとIIとIIIを1:1:2の割合で計算)	I	II	III	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
		目標に向けた取組の進捗	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	
千年の草原の継承と創造的活用総合特区(阿蘇市、南小国町、小国町、産山村、高森町、南阿蘇村、西原村、山都町)	3.7	3.9 進捗度 ・草原管理面積、野焼き再開 牧野数 99% ・牛馬の放牧頭数 《定性的評価》 ・観光入り込み総数、阿蘇地域の宿泊客数 《定性的評価》 ・あか牛肉料理認定店数 67% ・草原体験利用者数 《定性的評価》	3.3 地域独自の取組 ・ASO環境共生基金事業 ・入湯税込観光活用事業 等	3.8	<p>・計画の狙いである、「草原を活用した観光の促進と、その利益を草原再生に還元する仕組みづくり」についてはなかなか道筋が見えてこない状況である。引き続き、あか牛や草原を活用して付加価値の高い観光コンテンツを造成することで、草原再生のための利益を生み出すための取り組みが一層求められる。また、放牧や野焼きをはじめとした草原維持管理活動については、担い手不足にともなう課題が顕在化しているように思われる。観光の促進に加えて、より広く関係人口を構築するような取り組みも同時に進めていく必要。</p> <p>・観光インフラ整備やコンテンツ開発には地域外の理解者・協力者を得ていくことが肝要であり、世界的遺産である阿蘇草原を次世代に伝えて頂きたい。</p> <p>・災害の影響、コロナ禍という環境下の中で、多岐にわたって活動されていることは高く評価する。また、活動の過程で新たな着眼点や課題抽出をされている点についても評価する。</p> <p>・観光面では特区制度の積極的な活用も認められず、またコロナ禍の影響が長引いていることから、観光を草原再生に還元しようとする仕組みについては引き続き検討を進めてほしい。</p>